

産業建設委員会協議会

期日：平成 28 年 8 月 2 日(火)9:00～

場所：B101・102 号会議室

1 開会

2 委員長挨拶

3 協議事項

(1) 事務事業に係る評価結果の検討・集約

[裏面参考資料]

資料：No.1-1 施策個別評価取りまとめ表 No.1-2 事務事業個別評価取りまとめ表

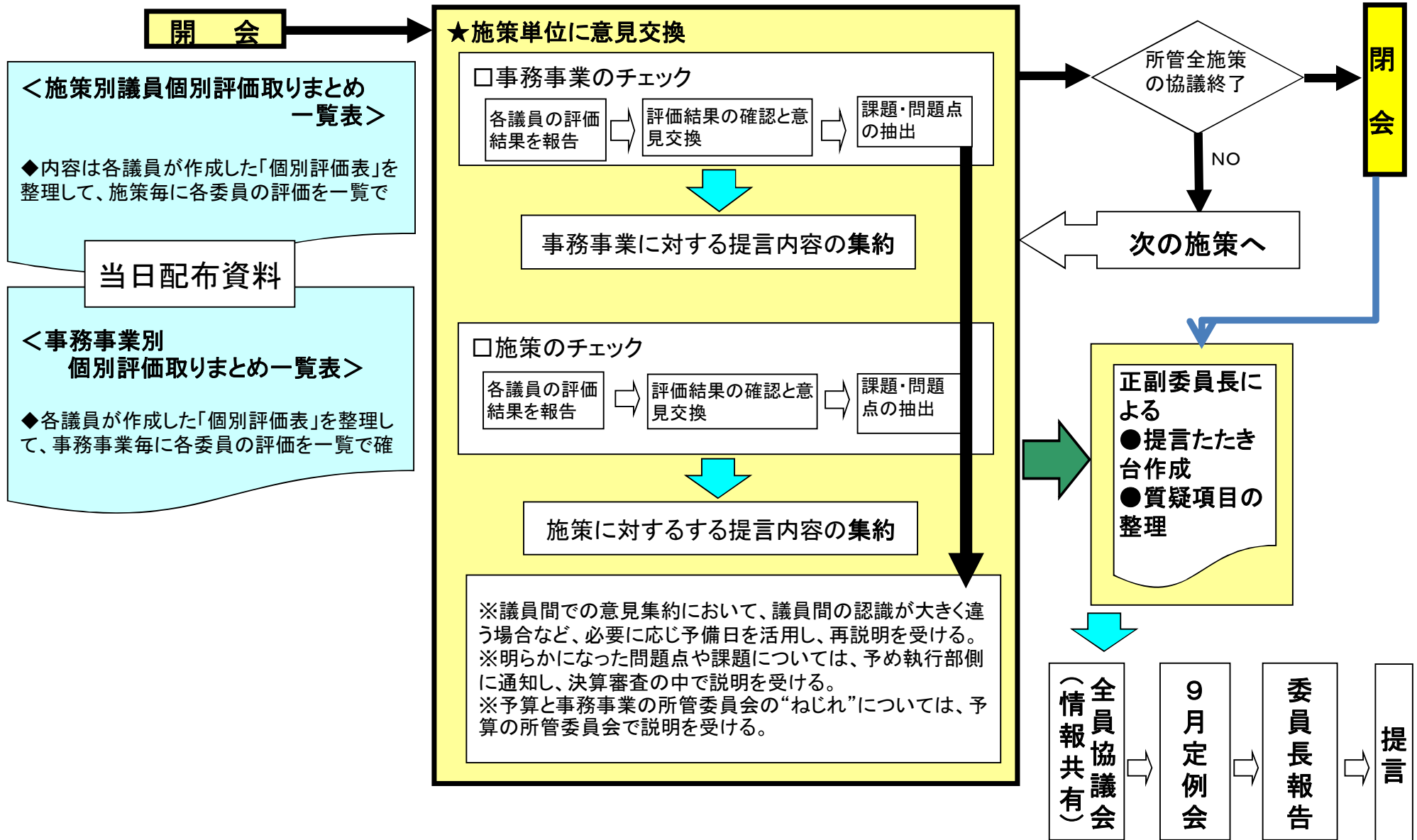
(2) 議会報告会における意見交換会のテーマについて

4 その他

5 閉会

平成28年度 行政評価 ステップ3及び提言までの流れ

参考資料



政策・施策名	議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む 	当該施策に係る提言
政策1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			
11 支え、育む産業基盤づくり	湯澤	課題認識、方向性は概ね正しい。飯田市の産業政策は1-1、1-2、1-3の施策が中心であり、三つが大きな一つの施策と捉えると事業の組み立ての矛盾が整理できる。	●整備予定の産業用地については対象となる産業分野の企業向け情報発信を早目に実施されたい●農業分野では意欲ある販売農家、認定農業者の実情を可能な限り計数把握されたい。●林務政策では団地化を進め路網整備や架線整備を進められたい。また森林づくりに市民参加ができるよう、「緑の保全と創出」施策と連携を図り推進されたい●観光政策については、飯田市観光振興ビジョン推進のロードマップを関連団体と共に策定し、進行管理されたい。
	森本	目標の達成状況、評価、課題認識はもう少し辛くして欲しい。農・林・商ともに大胆な政策誘導が必要と思われる。	産建視察で得られた積極策の導入を図るべきだ。林業は根羽村と姉妹都市を結びノウハウを実践、商業は消費者動向は無視できないのでコンビニと大規模店舗との協働を図る。農協も国際自由市場主義の中で変貌を余儀なくされており、ここは官民一体地方自治の踏ん張りどころと感ずる。
	小倉	勤労者の生活、就業支援、農地の保全改良、森林整備管理、観光施設の維持管理などいずれも方向はおおむね正しい。	リーマンショックの落ち込みからは回復してきているとはいえ、事業者数、農家戸数、卸売り・小売業の事業所数とも減少してきており、地域経済の衰退が懸念される。早急な対策がいそがれる。遊休農地・耕作放棄地が増加しており、担い手の確保のための施策の充実が必要。
	湊	概ね課題認識は正しいが、成果指数の状況の中で搬出間伐面積が好調であったが拡大を望む一方、地方卸売市場の取扱い数量がどんどん減少傾向は大きな課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年も提言したが、ほうりん第2工場（旧ウッドアース）の利活用されていないので、早期に森林組合を協議されたい。（森林資源の活用） ・飯田地方卸売市場の取扱数量・及び市場利用の店舗が減少。動向を許可登録番号のみではなく実際閉店した店を調査して欲しい。

政策・施策名		議員名	・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む	当該施策に係る提言
		清水(勇)	・事務事業・施策評価は同意できる、各課の課題認識もおおむね評価できる、事務事業は各産業別に取り組むため事業数が多くなるが、各課の取組状況はおおむね評価できる、貢献度はある程度であったと思われる。	・リニア、三遠南信自動車の開通に合わせ施策内容も検討して取り組む。 ・事務事業についてもリニア・三遠南信自動車関係を見据えた内容で取り組む。
		永井	・評価と課題認識は概ね正しい。 ・事務事業の組み立ての方向性は、施策1-1から1-3は相互に関連しあっており、事務事業レベルの関連性を明確にするとともに、地方創世の視点も入れて次期総合計画策定に向け大幅に見直すべき。また、施策のくくりについても見直すべき。	
		原	全体的な傾向は堅調だと思われるが、何をどうしての因果関係が説明できると、より効果的な対応がとられるのではないかと。	行政が関与出来ることは規制や環境づくりだと思うが、特に産業用地の確保はその一つであり、目標達成に向け取り組みを加速されたい。有害鳥獣による被害は年々顕著で、駆除について有効な手立てを打たれたい。
委員会意見集約				

政策・施策名	議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む	当該施策に係る提言
12 未来を見据えた地域産業の魅力、強み、人材の強化	湯澤	課題認識、方向性は概ね正しい。飯田市の産業政策は1-1、1-2、1-3の施策が中心であり、三つが大きな一つの施策と捉えると事業の組み立ての矛盾が整理できる。	<ul style="list-style-type: none"> ●当地域での大学院機能の維持は極めて重要。人材育成、人材確保のために産官学が連携し全力で取り組み信州大学の共同研究講座の恒久化を図られたい ●知の拠点整備の一環として国、又は県の研究施設誘致を強く働きかけられたい。 ●飯田荘、リニア駅舎など、地域産材を全面的に使用した飯田らしいシンボリックモデル施設を展開されたい。
	森本	施策11と同じく目標の達成状況、評価、課題認識はもう少し辛くして欲しい。農業・林業とも政策誘導なくして生き残れない。それも他の予算を削ってでも投資することなくは無理だと思う。	上記に同じ、それこそがタイトル「未来を見据えた・・・」に恥じない施策と思う。
	小倉	いずれの施策も方向性はおおむねただしい。	木質バイオマスエネルギーを利用することで、雇用の創出と地域経済を活性化することが求められる。
	湊	重点、施策ではかなり関連計画が多岐にわたっている。対象指標、成果指標の状況は未確定が多い。評価としては、目標達成状況が厳しいのではないかと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者の高齢化が進み、担い手不足のため幽体化が進んでいるが、新たな農業参入者の増加をはかるための支援強化。 ・6次産業の推進（シードル・山肉加工）の施設設置。

政策・施策名		議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む 	当該施策に係る提言
		清水(勇)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務事業・施策は評価結果に同意できる。 ・各課の施策、事務事業も取組が多数あるが取組状況はおおむね評価できる。 ・貢献度、具体的な取組はおおむね成果はあったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア、三遠南信自動車の開通に合わせ施策内容も検討して取り組む。 ・次世代を見据えた施策・事務事業を検討し進める。
		永井	<ul style="list-style-type: none"> ・「後期4箇年の取組評価」における評価結果の理由として、日本全体の経済動向を基に「施策全体はある程度進んだ」と評価している。しかし、事務事業群のテーマごとに事務事業の内容を検証すると、去年の産建委員会における行政評価での議論のとおり、もう少し厳しいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学輪IIDAの知見と地場産業のコラボは、鳥取県大山町の事例からすると、もっと成果を上げることができるのではないか。 ・林業と住宅産業の連携強化を検討されたい。 ・飯伊森林組合の取り組み強化と行政の役割分担を検討されたい。 ・農業振興センターの抜本的見直し強化を検討されたい。併せて行政の役割の明確化を図られたい。 ・インバウンドを呼び込む準備を加速化されたい。
		原	<ul style="list-style-type: none"> 航空宇宙産業の基盤が整うとの評価であるが、肝心のその基盤が結果として地域産業にどう寄与するか具体的な展望が見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成では企業の要求する人材育成の観点で行うべきで現在は偏っているように思われる。むしろ応募方式で企業に支援金として補助事業としたら良いのではないか。観光情報の提供はどうするかも含め専門機関に任せたい。
委員会意見集約				

政策・施策名	議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む	当該施策に係る提言
13 新しい力による産業づくり	湯澤	課題認識、方向性は概ね正しい。飯田市の産業政策は1-1、1-2、1-3の施策が中心であり、三つが大きな一つの施策と捉えると事業の組み立ての矛盾が整理できる。	●イノベーションは「人」が要。改めて担当職員へは現場意識を喚起し、現場に入り、共に悩み考え抜き、現状打開のための新たなメニューを創出されたい。(例：意欲ある販売農家、認定農業者との懇談を増やすなど)●近隣の菓子メーカーで業績を著しく伸ばしている企業があり、地元食材を活用した食品産業クラスター形成に注力されたい。
	森本	施策11,12と同じく目標の達成状況、評価、課題認識はもう少し辛くして欲しい。新しい力=人材が登場できる誘導策に物足りなさを覚える。特に若者に対する視点が感じられない。	格差解消の道は遠いので、先ず生きる手段としての農業に関心を持つ市民対象の市場システムを作る。18歳選挙年齢引下げを好機と捉え、ふるさと登録等域外へ出てゆく若者をUターンにつなげる策を打つ。市場経済だけが生きる手段ではないことを教えるべきだ。
	小倉	いずれも施策の方向はおおむね正しい。	キャリアデザイン室をどうしたIUターン者の数は横ばいであり、一定の実績をあげているとのことだが、相談だけでなく、定着するまでの支援が総合的に行われるような施策の展開が求められる。
	湊	新しい力による新しい産業づくりについては非常に大切である。成果向上に向けての役割分担が指標の傾向が良いと判断。貢献度は大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ・地の拠点、整備事業が早急に進めること。それ故、早く県の飯田工業高校の跡地認可されたい。 ・飯田市、産業親善大使の活動が見えてこない。したがって、新たな展開に向けた取り組みを。 ・空き店舗活用強化 ・遠山郷観光戦略的プロジェクト事業及び遠山郷道の駅拡張を課題取り入れたい。

政策・施策名		議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む 	当該施策に係る提言
		清水(勇)	<ul style="list-style-type: none"> ・施策・事務事業は評価結果に同意できる。 ・事業の取組についても成果のた事業が見受けられる。 ・貢献度はある程度あったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代を見据えた取組、計画、リニア・三遠南信自動車開通を見据え他の関係団体との連携を取りながらより綿密な事務事業を検討し取り組む。
		永井	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は概ね計画どおりで、ある程度進んだということか・・・ ・事務事業の組み立ての方向性については、施策1-1に記述した内容がまさにここでも当てはまる。 ・航空宇宙産業をけん引役として、メディカルバイオクラスター、食品産業クラスターを、雇用の創出を含めた飯伊地域の経済を支える主要産業に成長させることができるかが問われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる政策を総動員して、人材の誘導に本気になって取り組めるかが飯伊地域創生の鍵。 ・チャレンジ農業セミナーや農業女子起業塾を発展させIターン者を含め、農林業従事者の育成・確保という視点で、しっかりした研修制度を作ってはどうか。
		原	<ul style="list-style-type: none"> ・知の拠点構想に関する県の支援について、用地確保だけでありなのか全体の戦略が見えない点が気がり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材誘導では結ターンブログのアクセス数とその影響度が検証できると良い。起業講座の口座数及び参加者が突出しているが、意欲ある人材の求めるものはないかを把握され対応すると良い。
委員会意見集約				

政策・施策名	議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む 	当該施策に係る提言
政策4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			
44 交通機関と道路の充実	湯澤	課題認識、方向性は概ね正しい。	<ul style="list-style-type: none"> ●道路整備はリニア推進ロードマップ柱2の具体的施策の一つと位置づけ、リニア開通を見据え総合的視野に立ち取り組まれたい。今後、道路維持が大きな課題になると予想でき、今から長期的な維持管理計画を立てられたい。 ●ラウンドアバウトの有効性は認められているが、交通マナーに起因する事故も散見されており、更なる安全対策を講じられたい。またリニア駅周辺を含め新たな設置を検討されたい。 ●乗り合いタクシーの利用が停滞しているが、利用者からのアンケート収集、新たな路線開拓、お試し券など先ず体験して貰う試み、全職員（議員も）が年に一度乗り合いタクシーに乗りモニターする等を検討されたい。
	森本	達成状況・評価・課題認識はよい。道路インフラ整備は都市計画の基本のひとつと思うが、高齢化ゆえにメンテナンスが滞ると言う現実にもう少し直視すべきではないか。	道路維持管理についてもっとまちづくり委員会に取捨選択等任せることを提言します。
	小倉	いずれも施策の方向はおおむね正しい。	バスや乗り合いタクシーが運行しておらず、不便を感じている地域もあるので、利用者の意向をもとに路線の増加、ダイヤ改正などにとりくまれたい。
	湊	市民バス・乗り合いタクシーの利用者数が平成27年度は増加された事、成果あり。只、市内の移動（道路・交通機関）に不便を感じているので重要課題として認識を。	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅へのアクセス道路の整備検討を。 ・三遠南信道自動車道の早期供用開始のため要活動の展開（H28年度予算の入札が遅すぎる）

政策・施策名		議員名	当該施策に係る提言
		清水(勇)	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア・三遠南信自動車開通を考慮して取り組む、各地域の主要な道路整備を進める。
		永井	<ul style="list-style-type: none"> ・「舗装繕計画」「道路事業評価システム」の内容を知らない。 ・優先度評価や維持管理・新設改良の計画の内容や主旨を市民に分かりやすく説明すべき。 ・乗り合いタクシーの利用を進めるには、高齢者に乗車体験をしてもらってはどうか。
		原	<ul style="list-style-type: none"> ・道路に関し、市内の移動に不便を感じる市民の割合について、目標値をクリアーしている中でどうするのかの点で新たな目標設定などが見ない。
委員会意見集約			

政策・施策名	議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む 	当該施策に係る提言
45 住居基盤の向上	湯澤	市民の満足度は向上しており、目標の達成状況、評価、課題認識は概ね正しい。	<ul style="list-style-type: none"> ●上下水道事業は今後維持管理の時代に入り、施設の長寿命化と安定経営に引き続き計画的に取り組まれない。 ●飯田市は都市部の公園面積が少なく、リニア・三遠南信時代を踏まえ、環境を重視する飯田市としての政策を展開されたい。(例:都市計画区域内の空地、遊休農地、里山の公園化など)
	森本	高齢化ゆえに水洗化を躊躇すると言う問題意識は同感である。河川維持補修の困難さも深刻化している。基盤整備は充実しており、むしろ市民の側の感謝の念の醸成が必要ではないか。	維持管理についての啓蒙活動を行なう。
	小倉	いずれも施策の方向はおおむね正しい。	各事業について、維持管理費が増大するなか、適切な長寿命化対策を行われたい。
	湊	取組の状況評価。施設全体の評価も概ね正しい。特に居住基盤に満足している市民の割合は83.2%と良くなっているため事業の組み立ての方向性は正しいと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の整備において、道路から川がみられるようにしてほしい。(樹木等の除去及び伐採をしていただきたい) ・子どもの森林公園の増設をしては。

政策・施策名		議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む 	当該施策に係る提言
		清水(勇)	<ul style="list-style-type: none"> ・施策・事務事業の評価結果に同意できる。事務事業の組み立ての方向性についても妥当と思われる。計画的な改修・補修の取組についてはおおむね評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後についても長寿命化、維持管理はしっかりした計画予定を立て取り組む。 ・公園、河川、斎苑・墓地、公衆便所との新設、改修は計画的に取り組む。
		永井	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標が上下水道の普及率となっているので概ね計画どおり進んだと思う。接続するしないはともかく皆水洗化も達成した ・事務事業の組み立ての方向性は正しいと思う。 ・83.2%の市民は、どのような点で居住基盤に満足しているのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上・下水道ともに、安定経営に向けた長期財政見通しを至急示されたい。 ・高齢化が進行する中において、現在市民が担っている公園の管理の部分ができなくなったときどうするかを検討を始めること。
		原	市民満足度も高く、特段なし。	上下水道の維持管理を今後も適正に行われたい。
	委員会意見集約			

政策・施策名	議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む 	当該施策に係る提言
政策5 人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			
51 緑の保全と創出	湯澤	本施策は環境文化都市の根幹を成すものであり、市民との理念の共有、協働が欠かせない。しかしながら河川美化活動への参加世帯は目標値より10ポイント少ない値で推移している。又近年、絶滅危惧種の増加が近隣県まで及んでいることなど踏まえると、行政側の課題認識は甘いと感じる。	●飯田市の林務行政を進める上での大きな課題の一つは市民の関心の低さにある。森づくり、緑の保全や緑化に関する条例制定など、市民一丸となって政策展開することを検討されたい。
	森本	人工林の多くが収穫適齢期を迎えているにも関わらず国の補助金削減で搬出が進まないとの課題は共有したい。しかし・・・もっと自発的な人々に学ぶべきと思う。	水源涵養機能でつながる三遠南信連携の木材需要喚起策を練る。
	小倉	いずれも施策の方向は正しい。	人工林の多くが収穫適齢期を迎えているなかで、豊富な森林資源を利用して、公共施設・住宅の木造化がもっと進むよう、市単独の補助金を増額しても事業の進展を図られたい。
	湊	水や緑が保全再生されて増加している。目標の達成状況、評価、課題認識は正しい。特に河川の水質目標の達成率は100%であった事。	<ul style="list-style-type: none"> ・崩壊地等の復旧については、国及び県に積極的に対応していただきたい。 ・森林造成、間伐促進に関しては搬出間伐を拡大してほしい。又、作業道の開設を。 ・ユネスコエコパークに登録後の利活用を積極的に進めたい。

政策・施策名		議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む 	当該施策に係る提言
		清水(勇)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加型事業であり評価については難しいところがある。森林、河川、公園等維持、管理、保全は大切であり、今後も参加人数を増やす取り組みをする。 	取組の必要性と成果、取組状況を広報などで市民に発信していくこと。
		永井	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の保全に関する部分については、成果指標の数値からするとあまり進まなかったと思う。 ・森林の保全は、生態系、治山、農業、ふるさと意識の醸成などにとって極めて重要。国・県・市や市の各部署にまたがる権限、職域、財源に捉われない総合的な政策の組み立てが必要ではないか。 	
		原	河川の水質が実績100となっているが理由を評価すると今後に繋がるのではないか。	成果指標の内河川清掃に参加した世帯の率が低調なので、工夫されたい。
	委員会意見集約			

政策・施策名	議員名	・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む	当該施策に係る提言
政策8 山・里・街の魅力を高め、交流と連携によるグローバルなまちづくり			
83 計画的な空間利用の推進	湯澤	課題認識、方向性は概ね正しい。	●リニア駅周辺整備区域(6.5ha)を取り巻くエリアの計画的な空間利用計画を早急に示されたい。
	森本	利害が絡むたいへんな策定作業であり達成状況・評価・課題認識はやむを得ないと思われる。空き家対策でまちづくり委員会が調査等動き始めたのは良い。	用途地域指定について新しい世代による関わりが鍵を握るのではないか。
	小倉	いずれも施策の方向は正しい。	リニア駅とその周辺が中心市街地にならないような配慮が必要である。
	湊	リニア時代にを見据えた地域土地利用基本方針にそって変更している。成果指標は増加傾向にある。	・リニア駅周辺の土地利用・景観形成に関し社会基盤の整備構想との整合を図る。特に景観や緑の育成等も具体的に組み込んで欲しい。 ・老朽化した危険な空き家の撤去を実行する。

政策・施策名		議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む 	当該施策に係る提言
		清水(勇)	<ul style="list-style-type: none"> ・施策・事務事業は評価結果に同意できる。 ・主に各地域の土地利用計画、空き家対策などの取組はある程度の成果はあったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の土地利用の取組、空き家の利活用などについて地域要望をを考慮して取り組むこと。
		永井	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の推移からすると概ね目標に近づいていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生、若者定住を進めるために住環境を整備するという視点で、土地利用計画を見直してはどうか。
		原	特段なし。	<ul style="list-style-type: none"> リニア駅周辺の利用計画に当たっては、新たな商業施設が進出するような事にならないようにすべきだ。合わせて、移転を余儀なくされる世帯に対し方向づけを明らかにすべきだ。農地法の関係も有るが、農振農用地の規制は特に中山間地において緩和の検討を。
委員会意見集約				

政策・施策名	議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む 	当該施策に係る提言
84 活気ある街づくりの推進	湯澤	中心市街地は南信州定住自立圏の中心核としての顔と機能を持っており、多くの市民に中心市街地の重要性を認識してもらうことが本施策の底辺にあるべきである。その視点から課題認識がまだ弱い感がある。	●中心市街地に関心の薄い市民等に中心市街地の重要性を認識してもらい関与してもらえらる尚いっそうの仕組みづくりを検討して頂きたい。●まちの活性化・デザイン協議の提案の多くが示していたように、中心市街地の緑化は重要なテーマであり、民間活力も生かし具体的に検討されたい。●空き家の活用を街づくりに生かすため空き家情報のネット公開を急がれたい。●歴史的建造物など散策スポットの回遊を楽しむ動線を整備されたい。
	森本	おおむね計画通りの評価は仕方ないにしても、施策全体のある程度進んだは甘い。りんご並木整備とフェスティバルだけでは物足りない。矢張り文化会館を駅前に造る構想があって初めて並木が生きると思う。	飯田文化会館を駅前に作る構想をリニア開通までに現実のものとするべきだ。
	小倉	いずれも施策の方向はおおむね正しい。	中心市街地に緑を増やし、滞留場所も増やして、いこいの空間になるように改善することが必要。
	湊	課題・認識は概ね正しいが、エリアを拡大してりんご並木周辺だけでなく、まちなかの6スポットをあわせた商業市街地活性化に向けて活気あふれる町づくりが必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化を進め散策できる環境文化都市をめざすこと（土地利用の検討） ・空き店舗の活用 ・動物園の再整備を続行し拡大を。

政策・施策名		議員名	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、評価、課題認識は正しいか ・事務事業の組み立ての方向性は正しいか ・上位政策実現への貢献度は ※4年間の検証含む	当該施策に係る提言
		清水(勇)	<ul style="list-style-type: none"> ・施策・事務事業は評価結果に同意できる。 ・中心市街地活性化計画により進めているが、成果内容についてはより検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係地域はこの施策をどう捉えているか、地域の関わりと各イベントの参加状況の把握、今後重点的に取り組む課題は何か捉えて進める。
		永井	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の課題認識や方向性は正しい。 ・中心市街地は南信州定住自立圏の中心核としての顔と機能を持つため、緑化を進め散策を楽しめる環境文化都市にふさわしい街づくりを推進されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅から中心市街地へのアクセス性の向上を図るため、案内板に限らず様々な取り組みをされたい。
		原	特段なし。	<ul style="list-style-type: none"> ・リンゴ並木周辺を更に美しく飯田の顔となるような特徴ある取り組みを期待したい。
	委員会意見集約			

番号	事務事業名	議員名	事務事業の方向性					方向性選択の根拠・意見
			拡大	現状維持	やり方改善	縮小	廃止	
1	森林鳥獣被害対策事業	湯澤			○			防護柵設置（座光寺モデル）の普及、みどりの景観整備事業と連携
		森本			○			駆逐を主体にするのではなく共存を考えられたい。
		小倉		○				カモシカによる食害被害を防止するため、許可を得た頭数を捕獲したとのこと。事業の目的、意義は理解できる。
		湊	○					特定鳥獣保護管理計画の見直しをしてカモシカの捕獲数を拡大すると共に特にクマ・サルの対策を強化する必要があると思われる。 ・モンキードック・ベアドックの育成に対する補助金の拡大を
		清水(勇)		○				26年度よりの事業であり現状維持
		永井	○					カモシカについては計画的に、また、熊・猿等については「みどりの景観整備事業」（28年度から農業課が担当課）や農業課が担当する「農作物被害対策事業」との連携を密にして切れ目のない総合的な対策に取り組むべき。信大などによる知見を大いに活用し、エサの確保など鳥獣の生態の研究を踏まえたうえで効果的な対策を打たれたい。
		原	○					有害鳥獣による被害軽減のため、予算も含め駆除頭数を増やし対策されたい。
委員会集約/方向性集計								

番号	事務事業名	議員名	事務事業の方向性					方向性選択の根拠・意見
			拡大	現状維持	やり方改善	縮小	廃止	
2	農地流動化促進事業	湯澤			○			意欲ある販売農家、認定農家の意向をしっかりと聞き取り、課題解決のために一層の努力を。中間管理機構をより有効に機能させる。
		森本			○			旧態踏襲の用地地域指定を若者に委ねて見直すべき。
		小倉		○				認定事業者の農業者が土地を借りやすくし、もって土地の集約・流動化を図り、遊休農地の解消を図るという目的は理解する。遊休農地の解消という点では、十分な成果が上がっていない。
		湊		○				認定農業者の担い手の育成を強化し、情報の提供・共有を行い農地の集約化を推進されたい。
		清水(勇)		○				認定農業者への補助金事業であり現状把握
		永井		○				この事業は農業委員会事務局が担当課となっているが、農地の遊休荒廃化傾向に歯止めをかけることができるような取り組みになっているのだろうか。情報提供や他の事業との連携は取れているのだろうか。
		原	○					新規就農者を含め営農意欲ある人に対し単価も含め更に拡大すべき。他の自治体も調査の上で他地域との差別化を図る。
委員会集約/方向性集計								

番号	事務事業名	議員名	事務事業の方向性					方向性選択の根拠・意見
			拡大	現状維持	やり方改善	縮小	廃止	
3	意欲ある農業者支援事業	湯澤			○			枠はあるのに十分活用できていない。制度の認知を深めると共に、より使い勝手のよいメニューを検討すべき。
		森本			○			1ターンで来る農業従事者は我々とは違った価値観の持ち主と認識すべき、そこから生産的支援を考えて貰いたい。
		小倉	○					農業資金の貸し付け対象の拡大により、相談件数・貸し付け件数とも増加している点は評価できる。さらにこの制度のPRを行うことにより、拡大すべきである。
		湊		○				あぐりチャレンジ農業資金の活用を広く農家へ周知する。又、意欲ある農業者へ各種補助金について詳細をきめこまかく説明して行く必要があると思われる。
		清水(勇)		○				対象が限定されている、支援対象者への広報に努める。
		永井			○			実績評価表では、対象となる農家への周知が問題とある。市役所の所管する部署との連携でICTを使った方法も研究されたい。意欲ある認定農業者の仲間づくりはどうか。JAと認定農業者の関係は。
		原	○					意欲有る営農者との懇談を進め出来そうなことは何かを考え、奇想天外なことを何でもやるべき。
委員会集約/方向性集計								

番号	事務事業名	議員名	事務事業の方向性					方向性選択の根拠・意見
			拡大	現状維持	やり方改善	縮小	廃止	
4	商店街魅力向上事業	湯澤			○			向上させたい指標（売上高/店）の数字を把握すべき。事業主側から魅力向上に繋がる提案に対する補助メニューを増やしたい。
		森本			○			イベント中心の単発事業はそろそろ見直すべきと思う。
		小倉			○			地元小売店での消費がダウンしている中で、この事業により、地域商業の振興に一定の効果があったとしているが、具体的な効果がみえない。「商店版リフォーム制度」の導入などより効果的な事業の導入を行うべきである。
		湊			○			商店街魅力向上のためには、今までのやり方では消費がダウン傾向にあるため、商工会議所が中心となり商店街活性化のため抜本的な改善策を。
		清水(勇)			○			補助金事業であるが個人利用が少なく、団体が多い。
		永井		○				食に関するお店を含めた様々な種類の商店が並び商店街の魅力を向上させるという視点での取り組みは良いと思う。ただ、メニューによる補助金交付という手法しかないのか。店主の意欲を引き出すような方法はないものか。後継者をつくるための方法はないか。
		原			○			学輪IIDAの研究テーマにしてみたらどうか。
委員会集約/方向性集計								

番号	事務事業名	議員名	事務事業の方向性					方向性選択の根拠・意見
			拡大	現状維持	やり方改善	縮小	廃止	
5	海外誘客促進事業	湯澤			○			市が今後どのような展開を考えているのか市民理解が不可欠。海外からのサイクリングツアー、小中学校生の受け入れ先地区住民に対する周知などを行い、受け入れ体制の整備にも取り組むべき。
		森本			○			警戒心も無く観光客が増えればいいみたいな考え方がもしあれば払拭して貰いたい。
		小倉		○				中国、アジアの中学生がサイクリング体験ツーリズムに参加したり大人が農業体験を行うなどしているとのことだが、めぼしい成果につながっていない。海外客へのうりなど魅力あるものを考えられたい。
		湊			○			今後リニア時代に向けて対応策を。市レベルでの首長がトップダウンで営業を行っていくこと。市独自の予算化も必要。
		清水(勇)			○			成果指標の取組は別として飯田独自の取組内容も考える。
		永井	○					リニア中央新幹線の開通を見据えて、県の協力も得ながらもそれだけに頼らず、もっと積極的にしかけてはどうか。プランニングの段階から、市の職員ではなく人を選んで民間人を登用しては。「地域全体が外国人旅行客の受け入れ態勢が進んでいない」というのはもっともだが、取り組むスピードが遅すぎないか。例えば、飯田市ならではの、小・中学生に国際感覚を身に付けさせる教育さえ進んでいない。小さな世界都市と言い出してからもう何年もたっているがいっこうに変わっていないのでは。
		原			○			県支出金に頼る事業なので余り無理をせず、何が売れるかのアピールポイントの絞込を。
委員会集約/方向性集計								

番号	事務事業名	議員名	事務事業の方向性					方向性選択の根拠・意見
			拡大	現状維持	やり方改善	縮小	廃止	
6	人材誘導事業	湯澤	○					企業と連携しHPをより充実させ、SNSを活用した情報発信など強化する。理工系大学との連携、家族単位での転入へも注力する。
		森本			○			生きる手段は多岐に亘るといふ発信力が乏しい。
		小倉		○				主として、キャリアデザイン室を中心とした、相談及び誘導策に限られている。Iターン者の人数の把握もデザイン室をとおしたのものになっている。UIターン者の希望に沿った体験メニューや移住支援策が必要である。
		湊	○					・若者が帰ってこられる産業づくりを目指すと共に雇用対策を各種団体と連携し積極的に進められたい。 ・「結いターン・キャリアデザイン室」の対応の強化。
		清水(勇)			○			今までの取組以外にも高校・大学への幅の広い広報活動。
		永井			○			(管外視察を行って新たなヒントも得た。2年任期の終盤を迎えるに当たって当委員会の最大のテーマ。) 市は、まずは飯伊地域について実態調査を独自に行うべき。調査結果を分析し、政策を立案する段階から、全部局を超えた体制を組んでから行うべき、そうでないと成功しない。
		原			○			島根の事例に学ぶべき、内容は別途。
委員会集約/方向性集計								

番号	事務事業名	議員名	事務事業の方向性					方向性選択の根拠・意見
			拡大	現状維持	やり方改善	縮小	廃止	
7	企業立地促進事業(補助金)	湯澤			○			三遠南信地域連携が活かされていない。制度のPR、パンフレット、PV制作など。
		森本		○				従来 of 企業誘致とは一線を引くだろうとの期待感がある。
		小倉		○				地域内外の製造業者を対象とした企業立地への補助制度として一定の成果があがっているものとする。更なる雇用の増加につながるよう考えられたい。
		湊	○					企業が求めるニーズに対応した補助金内容を検討すべきであり、特に設備投資の補助金の拡大が必要であると思われる。又、雇用増加につながる事を期待する。
		清水(勇)			○			企業のニーズ、現状に即した内容を充実させる。
		永井			○			国、県のメニューと市のメニューの具体的な違いは。「企業誘致推進事業」との違いは。新たな雇用の創出につながるという視点が大事。研究開発型企業に絞ることはどうだろうか。補助金メニューについて飯田市の独自性は出せないか。
		原			○			補助事業企業のその後の動向も情報把握、さらに補助による成果も数値化すること。
委員会集約/方向性集計								

番号	事務事業名	議員名	事務事業の方向性					方向性選択の根拠・意見
			拡大	現状維持	やり方改善	縮小	廃止	
8	幹線道路改良事業	湯澤	○					「建設から改良へ」の基本方針を前提としつつもリニア関連整備等に伴い幹線道路整備のニーズは更に高まっている。土地利用の見直しと併せ、市民との話し合いを十分深め、優先順位を決めて事業を進める。
		森本		○				市民への幹線市道に対する関心度を高める工夫が必要と思われる。
		小倉	○					幹線道路の改修や拡幅は必要になってきているのに、予算に限界があり、市民からの要望を受け付ける状態ではないとのこと。必要な予算は計画的に確保されたい。
		湊		○				・幹線市道（1・2級市道）については、優先なところから計画的に改良されたい。 ・施工延長が伸びなかった。1番の原因を知りたい。（具体的に）
		清水(勇)		○				主に地域要望を主体に進める為。
		永井				○		飯田市内の道路改良の全体像と財源の推移がわからない。この事業の対象となる幹線市道に対する飯田市の一般財源が、毎年5千万では市民からの改良要望を受けられる状態でないのは理解する。リニア・三遠南信道の開通という高速交通網時代を見据えて、地域ごと財源内訳を示して改良を必要とする幹線市道を整理し、優先順位を決めてある程度公表してはどうか。
		原	○					今後予算がないからという理由で道路改良は行わないという方針は間違い。市民益に対してどうかの観点で政策的に組み立てるべき。
委員会集約/方向性集計								

事務事業個別評価 取りまとめ表

H28.8.2 産業建設委員会協議会 資料No.1-2

番号	事務事業名	議員名	事務事業の方向性					方向性選択の根拠・意見
			拡大	現状維持	やり方改善	縮小	廃止	
9	みどりの景観整備事業	湯澤			○			森林鳥獣被害対策事業などと連携。事業名が事業内容と異なってきており事業の改名を検討すべきでは。
		森本		○				山林と農地との境界過繁茂藪・雑木除去作業は人手を要する仕事であり、高齢化対策が必要と思われる。
		小倉		○				荒廃した集落の森林(里山)保全管理を図ることにより、鳥獣被害、特にサルによる被害を防止する事業として一定の効果をあげていると考える。引き続き取り組まれたい。
		湊			○			平成28年度より農業課での事業となるため、山林と農地の林縁部の手入れの強化をはかり、特にサル被害の対策を強化し取り組みを。
		清水(勇)			○			他の事業と取組みとある。
		永井	○					林務課が担当する「森林鳥獣対策事業」や農業課が担当する「農作物被害対策事業」との連携を密にして切れ目のない総合的な対策に取り組むべき。信大などによる知見を大いに活用し、エサの確保など鳥獣の生態の研究を踏まえたうえで効果的な対策を打たれたい。防護柵の設置をどのように進めるかの検討との整合性を図られたい。会計検査院の指摘があったようだが、必要なら財源を確保して積極的に取り組むべき。まちづくり委員会などの対策活動を大事にして、しっかり連携すること。
		原		○				出来るだけの観点で良い。
委員会集約/方向性集計								

番号	事務事業名	議員名	事務事業の方向性					方向性選択の根拠・意見
			拡大	現状維持	やり方改善	縮小	廃止	
10	中山間地域振興プロジェクト事業(農業)	湯澤			○			下栗地区での取り組みを検証し、同様の課題を持つ他の中山間地区へどう応用させるか…
		森本	○					飯田市の三大観光ポイントである以上もっと力を入れて欲しいし南アルプスという世界的財産を名実ともに高められたい。
		小倉		○				遠山地区(下栗)を対象地区として中間地域振興のモデル地区とするために取り組んだとのことだが、その成果を他地域に普及するにはどうするか考えられたい。
		湊	○					・下栗モデル支援事業の継続を願うと共に、都会との交流、観光農園を含めて検討しては。又、下栗の里としての知名度も高くなっているので高原野菜・加工品等特産品の強化(商品化)が必要と思われる。 ・地域おこし協力隊と連携をはかり、支援を求めては(若者の結集策)
		清水(勇)			○			対象指標は多数だが現状は下栗地区、他地区も検討する。
		永井			○			管外視察した「株式会社 吉田ふるさと村」のような取り組みへ発展させることできるような支援策にならないか。
		原		○				自主的な地域活動5,500人、自主的な地域づくり参加者200,000人の実態把握の上で対策を。
委員会集約/方向性集計								